

北海道の部隊が、北部コミセンを活動拠点に、沿岸避難所の生活支援を行っています。

東日本大震災の発生から3か月がたちましたが、沿岸の被災地ではまだまだ避難所での生活を余儀なくされている方々が大量にいます。

現在、北部コミセンを拠点に救援活動を行っているのは、北海道の第十一旅団から派遣されている第十一生活支援隊の皆さんです。普段は札幌や真駒内、滝川などで活動しています。

主な活動エリアは宮古市・山田町で、被災された方々への食事の提供、お風呂の設置等で、被災者の暮らしを支援しています。宮古市津軽石小学校・グリーンピアみやこ三陸などで、朝昼晩それぞれ七百食もの食事を作ります。

ある隊員は、メニューはいろいろと工夫を凝らしているが、数と食材の関係で限界があると残念がっていました。



隊友会滝沢分会による幟



大好評！藻岩の湯

入浴を支援するために設置した男女仮設浴場は一度に二十人ほどが利用できる広さです。浴場入口には、北海道の部隊らしい「藻岩の湯」の暖簾がかけられたお風呂のサービスは大好評です。震災からの復興に向け、多岐にわたる自衛隊の支援活動に沿岸のみならず感謝の声が上がっています。隊員自らは、各地の運動場などに野営しながらの救援活動が続いています。

お知らせ

現在、北部コミュニティセンターは、東日本大震災被災地の救援活動に派遣されている自衛隊の活動拠点として利用されているため、施設の一般貸し出しを休止しています。施設の利用再開のめどがたちましたらお知らせ

滝沢村北部出張所は、3月31日をもって東部出張所(巣子)に統合されました。4月より北部コミセンでは、住民票発行や納税などの役場窓口業務は行っておりませんのでご注意ください。



丁寧にテキパキとした作業風景

北コミ日記



○月△日 快晴

午後3時ごろ、沿岸からの自衛隊の大きなジープが到着した。いつもならすぐに、大きなリュックと寝袋を抱えて入ってくるのに、なかなか来ない。

何やら外が騒がしいので、出てみると車の荷台から草刈り機や燃料缶をおろしているところだった。

「どうしたんですか、その草刈り機？」

「前の道路沿いを刈らせてください！」

なんと、草刈りをしてくれるという。総勢八名。「草刈り機班」、歩道をきれいにする「ほうき班」、それにコミセンの庭を整備する「草むしり班」とに分かれ、

打合せ後、活動開始！

約一時間、歩道沿いの草地も、歩道も庭もとてもきれいになった。

お礼を言うと彼らは「いやいや」と、とても不器用に照れるだけ。

自衛隊員の心遣いに嬉しくなった。が、もしかして第十一生活支援隊のなかで、「コミセン」は、草ぼうぼうでも何もしないようだから、なんとかしてやれ！」なんていう話になっていたので「と、ちよっと心配に（汗）」

本当にありがとう！自衛隊さん！

翌日、入れ替えでコミセンに入った隊が、刈って寄せてあった草や、落ち葉を袋に詰める作業をしてくださいました。



歩道がすっかりきれいに！



こちら、草むしり班

